

研究会の視点

- 新しい研究主題で目指す子どもの姿が単元構想、小単元構想、授業の中に表れていたか。
- 教科等との関連付けが意識されていたか。
- 「つかむ」「深める」「振り返る」を意識した授業展開になっていたか。
また、子どもの変容が見られたか。

6年2組(鈴木組) 「とべまち SMILE 防災隊」

【担任の意図】

防災センターでの体験を通して学んだことについて、体験コーナーごとに整理し、共通点を探る中で「パニック」「焦った」「冷静な行動」という内容の発言を焦点化し、冷静に行動することの重要性や難しさに気付かせる。

【授業の様子】

担任が予想していた以上に、子どもたちは体験を通して災害の恐ろしさを感じ取っていた。授業後半では、共通点を見出し、焦点化することをあせってしまったため、「災害時にはどのような問題が起こり得るのか」という、本時の問題意識について、子どもたちが十分に納得いくまでの話し合いができなかった。様々な体験から感じ取ったことを、もう少し丁寧に聞き合うような展開を目指すべきであった。



講師の先生から

- 総合の活動のスタートは大きく二つある
 - ①夢や願いの実現をめざすもの…はっきりにした活動があり、問題が生じていく。
 - ②不安や気がかりの解消をめざすもの…対象や相手を知ることから始まる。
- 「つかむ」での子どもの発言には、問い返すことで授業の山ができるものがある。
授業中、教師は反応し、立ち止まって問い返したり、価値付けたりする。
「それってどういうこと」「なるほどね」等
- 「つかむ・ふかめる・ふりかえる」について
本時課題を大切にし、本時課題に対する答えを出す話し合いをしていく。
「つかむ」…知る、感じる等
「ふかめる」…再認識、認識が重くなる、理論がつながっていく、“納得の共有化”
「ふりかえる」…学んだことに意味があったと捉え直す